

地質リスクの知見深める

岡山県地質調査業協会 技術講演会を開催

岡山県地質調査業協会は25日、岡山市の岡山国際交流センター・国際会議場で2026年度技術講演会「地形学や地生態学から地質リスクを考える」を開いた。写真。会場、ウェブ参加者合わせて1242人が聴講し、地生態学視点からの地質リスクやリスク推定に役立つ地理空間情報などについて知見を深めた。

冒頭、あいさつした小谷裕司会長は「昨今の工事費高騰や安全性の問題の多くは、地盤や地質の不確実性に起因しており、地質リスクの重要性が高まっている。地質調査業



務は設計用データの提供のみならず、事業の意思決定を支えるリスク情報を提供するものであることを再認識する必要がある」と訴え、地質リス

クマネジメントの重要性を強調した。

講演会では、エイト日本技術開発の木村隆行理事技師長が「実務に役立つ地形から見た地質リスク」、関西大学の黒木貴一教授が「地質リスク評価への地形学的視点」、山口大学の太田岳洋教授が「地生態学視点から見た地質リスク」と題して、それぞれ講演した。

木村技師長は、地形規模で分かる地すべりの深さや地形から予測できる崩壊区域、黒木教授は微小な地形変化から見る地盤の動き、景観から推測できる地形・地質情報、太田教授は斜面災害リスクへの地生態学の応用、植生効果を考慮した斜面の安全率評価などについて解説した。

